

# 高森町立高森南小学校

国語科 5 学年 (光村図書 銀河 やなせたかし  
—アンパンマンの勇気)

単元名 「伝記を読んで心に響いたことを紹介する  
カウントダウンカレンダーを作ろう」

授業者 中村 瑠香 教諭 (5年2組担任)

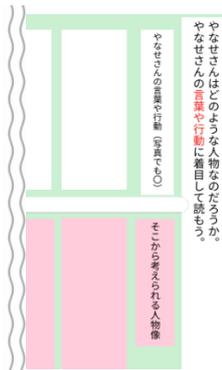
指導者 水野 真澄 専門主事 (長野県総合教育センター)

## 1 本時の主眼

「やなせたかし—アンパンマンの勇気」を読んでたかしに影響を与えた出来事について考えた子どもたちが、やなせたかしはどのような人物なのかを考える場面、たかしの言動に着目して読んだり、友だちと考えたことを伝え合ったりすることを通して、たかしの人物像について具体的に想像することができる。

## 2 視聴覚機器の役割

本時はロイロノートを使用した。ロイロノートでは、共有機能を使うことで、いつでも、だれでも参照することができ、困っていたり悩んでいたりする児童への手当てとなる。ノートを使用するときよりも、見たいときにすぐに友だちの考えを参照することができる。また、本時はロイロノートを使用してワークシートを作成した。ワークシートにしたことにより、自分の考えと叙述をつなげやすくなったと考える。今後は、子ども自身がロイロノートでワークシートを作ったり、思考ツールを活用したりして、自身の学びの表現の仕方を広げることも可能だろう。



## 3 授業の概要

本単元は「伝記」と出会う単元であり、思考力、判断力、表現力等のC(1)オ「文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる」ことの育成をねらった。伝記の読み方を知るために、「やなせたかし」を読んで、やなせたかしの生き方について学び、心に響いた言葉や考えから自分の生き方についての考えを深めた。その後、学習した伝記の読み方を活用し、自身で選んだ1冊の伝記から、心に響いた言葉や考え方を選び、その理由をカウントダウンカレンダーにする言語活動を行った。



## 4 研究会の要点

本校の研究に関して、5年2組でも「聴き合う」をテーマに話し合う時間を多く作ってきたが、グループでの

話し合いが形式的な発表になってしまうことについて議論された。話し合うことで、考えを広げたり、深めたりできるように、テーマを決めたり、自分の考えを明確にしたりしてから話し合う時間を作りたい。ICTの活用については、どの子どもも学びの道具として端末を活用でき、ICTを活用したワークシートによって、即時的に友だちの考えを見ることができたり、叙述と自分の考えを簡潔にまとめることができたりしていた。ワークシートについても、子どもたちの必要感を大切に、形式やまとめ方を子どもたちに委ねていくと、より主体的に取り組んでいけるだろうという意見も出された。



## 5 指導者の助言

伝記を読み、「私はこの言葉からこういう人だと思ひ、そして私は今後こうなりたい」という自分の生き方についての考えをもつ、その前段階の授業が本時であった。

言葉による見方・考え方について、子どもたちは「何に着目するのか」(やなせさんの言葉や行動の複数箇所)、「どう考えるのか」(やなせさんはどのような人物なのか)を書いていた。それを話し合いで広めていくところが、本時の一番楽しいところ、面白いところであった。話し合いの視点は、「複数の叙述を結び付けて、それらをもとに性格や考え方などを総合して判断すること」。これら指導事項の正しい理解でつける力を明確にした単元づくりを続けていってほしい。

国語の授業で力をつけていく手段として言語活動がある。相手、目的、場面の三つを明確に設定することで、言葉による見方・考え方が働く言語活動になる。あくまで言語活動というのは手段であり、カウントダウンカレンダーを作るまでに、子どもが育んだり発揮したりしている資質・能力をどう捉えるか、どう評価するか、それが子どもの学習改善と教師の指導改善につながっていく。

## 6 今後の課題

話し合いの質を高めることがあげられる。子どもたちが、自分の考えを持ち寄って議論していくために、自分の考えを伝えるだけで終わらせない工夫をしていきたい。話し合いのコツを共有していくとともに、自分の考えと違うところや同じところに注目して話を聞いたり、「これはどう思う？」と疑問になることを見つけて話し合いをしたりできると、子どもの学びがさらに深まっていくだろう。

また、ICTの活用についてもレベルアップしていきたい。ワークシートや思考ツールで個人の学びを深めるだけではなく、ワークシートの内容や協働で学ぶタイミングや時間を子どもたちに委ねていくことで、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図っていきたい。